

「物語を推薦しよう」

～叙述を基に推薦理由を明確にして、物語の魅力を伝える～

物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にして、自分の考えをまとめることに課題が見られました。そこで、本アイデア例では、この課題を解決するために、自分が選んだ物語の魅力を推薦することについての指導事例を紹介しします。なお、本アイデア例は、第5学年以上を対象としています。

授業アイデア例

心に響いた物語を推薦しよう（全7時間）

〈主な学習活動〉

〈指導上の留意点〉

学習過程

第一次

物語の魅力を「すいせんカード」にまとめる

① 教師の提示した「すいせんカード」を基に、物語の魅力を見付ける視点を捉え、学習計画を立てる。

■ 今までに読んだ物語の魅力を想起したり、教師のモデルを参考にしたりするなどして、登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など物語の魅力を見付けるための視点を捉えることができるようにする。

第二次

②③ 「きつねの写真」の魅力について話し合い、推薦理由を明らかにする。
④ 「すいせんカード」を書く。

■ 「きつねの写真」の中で、一番心に響いた場面や叙述を選び、その理由を伝えることで、互いの考えを交流することができるようにする。
■ 互いの考えの共通点や相違点を記録し、「すいせんカード」に生かすことができるようにする。

第三次

⑤⑥ 自分が選んだ物語の魅力について考え、推薦理由を明らかにする。
⑦ 「すいせんカード」を書く。

■ 「きつねの写真」で学習したことを確認することで、自分が選んだ物語の推薦理由を考えることができるようにする。
■ 推薦理由について、悩んでいることなどを中心に、友達と交流し、自分が選んだ物語の推薦理由を明確にすることができるようにする。

関連する本を教室に常備し、児童がいつでも読むことができるように工夫することが大切です。

また、児童の実態や付けたい力に適した本を、地域の図書館等と連携を図り、選書することが重要な教材研究となります。

学習後は各自が選んだ本に「すいせんカード」を添えて、学校図書館等に展示することで、児童が、目的をもって読むことができるようにすることが大切です。

ポイント

「すいせんカード」の例

きつねの写真

あまんきみこ 作

あらすじ

一番心に響いた場面や叙述

推薦の文章（推薦理由）

第一次①／7 物語の魅力を推薦するための学習計画を立てる

「すいせんカード」で物語の魅力を推薦するという目的をもって読むことができるように、単元の導入を工夫することが重要です。そのためには、次のような様々な工夫が考えられます。

これまでの学習活動を想起させる

これまでの学習経験から、言語活動や交流の意義を想起させ、本単元の学習への意欲や見通しをもつことができるようにします。



これまでの物語の学習で、楽しかったことや学んだことはどんなことですか。

「ごんぎつね」で、物語全体に広がっている登場人物の行動や会話に着目して読んだら、気持ちの変化がよく分かりました。今回も行動や会話に着目して魅力を見付けたいと思います。



友達と話し合うことで、紹介する理由がはっきりしました。場面と場面とを関係付けて考えることができたので、また友達の考えを聞きたいです。



教師がモデルを示す（本事例）

教師が心に響いた物語の魅力を推薦することで、児童に推薦するという言語活動に対する見通しをもてるようにします。また、単元に設定した言語活動を教師自身が行うことで、指導上の留意点が明確になります。



私がぜひ読んでほしいのは、「白いぼうし」です。このお話には不思議なおもしろさが味わえる文がたくさん散りばめられていて、それらがある一つの秘密につながっているのです。

物語のブックトークを行う

既習の物語や本単元で対象とする物語の読み聞かせを行ったり、あらすじや登場人物などを紹介したり、物語の不思議さやおもしろさに気付かせたりすることで、物語の魅力を推薦することへの興味・関心を高めることができるようにします。

児童自らが課題を設定したり、単元の学習計画を立てたりするためには、単元や単位時間の冒頭に、学習の見通しを立てたり、終末に学習したことを振り返ったりする活動を位置付け、それを繰り返していくことが大切です。

ポイント

課題の見られた問題の概要と結果

B③ 物語を読んで、感想を伝え合う

(あまんきみこ「きつねの写真」)

B③三 正答率 **43.9%** 「きつねの写真」から取り上げた言葉や文を基に、松ぞうじいさんとび吉がきつねだと考えたわけをまとめて書く

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕C エ

〔第5学年及び第6学年〕B ウ

第二次②③／7

心に響いた場面や叙述とその理由について交流する

文章の中から、心に響いた場面や叙述を見付け、その理由を考える



Aさん

「あたりの木がいつせいにざざっと…」というところが不思議な感じがして、心に響いたよ。ここをこの物語の魅力として推薦したいんだけど、不思議なところはほかにもあるかもしれない。友達の考えも聞いてみよう。

グループで交流し、自分の考えを明確にする



Aさん

「きつねの写真」の不思議なところを推薦しようと思っているんだけど…。

どこから不思議だと思ったの。



Bさん



Aさん

「あたりの木がいつせいにざざっと…」というところから、木が葉をゆすってとび吉を呼ぶなんて不思議な感じがすると思ったんだ。ほかにもあるかな。

「まるでまっていたように…」というところも、林の中に戻っていったはずの松ぞうじいさんが急に現れたから不思議だと思ったよ。



Cさん

そうか、Aさんは情景を、Cさんは登場人物の行動を基に考えたんだね。不思議な感じがする表現は物語全体に広がっているんだね。



Bさん



Aさん

みんなの考えを聞いて、不思議なところが魅力だという推薦の理由がはっきりしてきたよ。もう一度この物語を読んで確かめてみるね。

学習を振り返る



Aさん

交流を通して、すいせん理由がよりはっきりしてきた。Cさんから意見をもらうことで、登場人物の行動からも不思議な感じがするということが分かった。すいせん理由をもう一度考え直してすいせんの文章を書きたいと思う。

心に響いた場面や叙述とその理由を明確にするために…

- 心に響く叙述を見付ける
 - ・ 登場人物の行動、会話、心情、相互関係
 - ・ 場面についての描写 など
- 複数の場面の叙述を相互に関係付ける
- 自分の知識や経験、読書体験などと結び付ける など

交流を通して、自分の考えを明確にするために…

- 「自分の考えをより確かなものにしたい」、「ほかにもあるかもしれないから聞いてみたい」など、何のために交流するのかを児童が実感できるようにします。
- 自分の考えがどの叙述に基づいているのかを、児童が自覚することができるようにします。
- 自分の考えや交流したことをノートにメモすることで、自分の考えがどのように変わったのかを記録に残し、推薦の文章を書く際に活用できるようにします。
- 第三次で、自分が選んだ物語の魅力について交流する際は、次のような交流が考えられます。
 - ・ 同じ物語を選んだ児童同士で交流することで、同じ物語でもいろいろな考えや、感じ方があることに気付くことができるようにする。
 - ・ 違う物語を選んだ児童同士で交流することで、自分の考えた魅力が物語の魅力の視点（登場人物の描かれ方、構成の工夫、表現の特色など）に合っているか吟味することができるようにする。また、自分が選んだ物語と他の物語とを比較しながら考えをまとめることができるようにする。

視点を明確にして、学習を振り返るために…

- 学習して分かったことや次に生かしたいことなど、何について振り返るのかを明確にすることが大切です。
- 交流して得たことや友達の意見を聞いて考えたことなど、交流について振り返ることも大切です。

自分の考えがどの叙述に基づいているのかを明らかにしながら交流することで、自分の考えが明確になるということを児童が実感できるようにすることが大切です。

ポイント

本授業アイデア例

活用のポイント！

- 交流を通して自分の考えを広げたり深めたりするためには、日頃から、互いの思いや考えを尊重しながら共感的に受け止めようとする雰囲気をつくるのが大切です。
- 複数の叙述を関係付けながら、それらを基に理由を明確にして、自分の考えをまとめるためには、低学年の段階では、登場人物の行動など、中学年の段階では、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などに着目し、叙述を基に想像して読むことができるように指導することが大切です。

参照▶「平成29年度 報告書 小学校 国語」P.74～P.81, 「平成29年度 解説資料 小学校 国語」P.58～P.67